

2018年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデントズ オブ ザ イヤー賞

【創立者古屋賞】

No.	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	創立者古屋賞	フジノ ユウヘ 藤波 勇飛	法	4	レスリング部	・2017年 世界選手権大会フリースタイル 70kg級 3位 ・2018年 アジア大会フリースタイル 74kg級 3位 ・2018年 世界選手権大会フリースタイル 74kg級 出場 ・全日本大学選手権大会 4連覇 史上8人目 2015～2018年 ・全日本選手権大会フリースタイル 74kg級 優勝 2連覇 ・東日本学生リーグ戦 6連覇 に貢献
2	創立者古屋賞	ニノミヤ サキ 新添 左季	法	4	柔道部	・2017年 世界柔道選手権大会 男女混合団体戦 優勝 ・2018年 第18回 アジア競技大会 70kg級 優勝 ・2018年 第18回 アジア競技大会 男女混合団体戦 優勝 ・2016年 柔道グランスラム東京大会 70kg級 優勝 ・2018年 柔道ワールドマスターズ大会 70kg級 優勝 ・2018年 柔道グランプリバダベスト大会 70kg級 優勝 ・2016年、2017年 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 70kg級 優勝 ・2015年、2016年、2017年、2018年 全日本学生柔道優勝大会 優勝
3	創立者古屋賞	タカノ ユウスケ 高野 雄介	政治行政	4	ホッケー部	・2018年 第18回 アジア競技大会 優勝(インドネシア・ジャカルタ) ・2018年 第67回 男子全日本学生ホッケー選手権大会 優勝 (4年連続・6回目) ・上記大会においてチームの中心選手として日本代表並びに山梨学院大学に大きく貢献

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学院】

No.	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術	カニエ ナツコ 若尾 直子	社会科学 研究科	2		本論文「当事者参画と公共政策—がん対策策定過程を中心として」は、「当事者」が、がん対策の均てん化(がん対策の格差の是正)にどのような役割を果たしてきたかを、がん対策推進計画の策定に関与した自身の経験を踏まえながら考察した上、今後、「当事者」がさらに重要な役割を果たしていくためには、どのような方向が望ましいかについて、公共政策論をベースとして、また独自の質問紙調査の結果を分析して詳細に論じたものである。 若尾氏は、「当事者」が、がん対策の均てん化に果たしうる視点として、①「アドボケートの活動」、②「法律・条令などの制度」、③「行政における事務局体制」の3点を挙げ、今まで、「当事者」はこのいずれにも重要な影響を与えてきたことを論証し、今後、「当事者」がさらに重要な役割を果たすための方向性も提言している。本論文の問題意識は極めて鮮明であり、全体的な構成も優れている。また、論点の提示も的確であり、スチューデントズオブザイヤー賞にふさわしい。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学】

No.	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術	カニエ ジンキョウ 主 仁僑	法	4	實川和子ゼミ	本学生は国際的な財産法分野に高い関心を有し、将来は国際ビジネスに携わることを希望し、商法分野につき意欲的に研究を進めてきた。3年次に「日本と中国の株主代表訴訟に関する比較法的考察」というゼミ論を執筆。今後は、大学院法学研究科への進学し商法を専攻する。 今年度の卒業論文「濫用的会社分割と債権者の保護に関する一考察～中国と日本を比較して」は、近時の重要論点である濫用的会社分割につき、日本及び中国の法状況を債権者保護の観点から考察し、法解釈及び立法論を提言した意欲的な論文である。判例及び学説の分析が丁寧になされており、学生としては極めて高レベルの解釈論を展開している。 会社分割は比較的新しい制度(平成12年創設)であり、濫用的会社分割に関しても固まった通説というものはない。そうしたなかで、平成26年の会社法改正について論じ、また破産法の観点からも検討を加えている。さらに、単なる解釈論だけでなく、日本及び中国の同制度につき、比較法的手法を用いて立法論的考察がなされている点も高く評価できる。
2	学術	ワケキ ハヤシ 若木 隼人	政治行政	4	原禎嗣ゼミ	本論文「武士の教育」は、江戸時代の藩校での武士教育が江戸幕藩体制及び日本近代化にいかなる影響を与えたかという問題意識で書かれたものである。その優れた点は、第一にその分量であって、全体が約14万字であり、注が331個もある点である。ゼミの指導教授である原禎嗣先生は法制史が専門で、その影響もあって、本学生は江戸時代の武士教育の歴史的な側面を調査研究された。また、分量だけではなく、会津、薩摩、水戸、長州藩の藩校を直接、訪問調査するという現地調査を踏まえている点でも優れている。その執念のみならず、江戸時代の藩校が日本近代化にどのような影響を与えたかを探ろうとする問題意識の強さをひしひしと感じさせる。やや収集した資料の解説・紹介に力点を置きすぎの感があり、日本の近代化に及ぼした影響の考察が、ややおろそかになっているきらいはあるが、大学2年間をこの卒論を中心に没頭研究した鬼のような努力あとは見事としか言いようがない。
3	学術	ノグチ マユ 野村 麻衣	現代ビジネス	4	野原博淳ゼミ	本論文「宝石の地 やまなし」の現状—産地としての認知度と技術継承について—は、甲府の伝統産業である宝飾産業が中小数百社といわれる企業集積から形成されていることに注目し、この集積—現代経営論では「クラスター」と呼ばれる—がもたらすメリット・優位性とはどのようなものかを緻密かつ実証的に明らかにしようとする労作である。産業集積に典型的にみられる「競争」と「協調」の織り成す「市場的共同体」の姿を現実 に即して抽出している点は特筆に値する。 企業集積の優位性が発揮されるためには、コミュニティが形成され相乗効果が発揮される状況であることが必要であり、企業が地理的に集中しているだけで生まれるものではない。また産業集積に参加することで生じる企業の一体感、コミュニティ感覚、市民としての責任がそのまま経済価値を生み出す力になる。 本学生は、高い技術力や職人間の信頼関係が維持・継承されるための公共機関、学校、及び地域社会、またそれらの具体的な取組みにつき、各主要アクターとのインタビューを基に明証した。大変示唆に富む知見であり、山梨県甲府地方の宝飾産業のさらなる持続発展に資するものといえ、本学部の最優秀論文にも選考された。
4	学術	イシイ タイキ 石井 大樹	経営情報	4	笠野英弘ゼミ	本論文「トップアスリートにおけるライバルの存在に関する一考察—ライバルの存在・不在と競技力向上との関係に着目して—」は、競技スポーツにおけるトップアスリートのライバル関係に着目し、トップアスリートにとってライバルの存在が競技人生においてどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目的としている。当該論文では、仮説検証ではなく、仮説生成の立場をとり、仮説案出に有効なライフヒストリー法を用いて、解釈・分析を行った。その結果、これまでも指摘されていたような、ライバルの存在が競技パフォーマンスに対して正負の影響をもたらすことなどが示されたが、それに加えて、ライバルとの関係を活かす方法や、ライバルの存在が競技の楽しさを引きだすといった新たな仮説的知見も導出された。また、当該論文における分析対象は、山梨学院大学の卒業生で五輪競泳メダリストの鈴木聡美選手であり、本結果は、学術的にも実践的にも今後のスポーツ界にとって極めて貴重な知見になると予想され、高く評価できる。
5	学術	ミナモト テンジン 春原 天真	管理栄養	4	名取貴光ゼミ	本論文「サフラン含有成分によるアミロイドβ凝集抑制効果」は、サフランに含まれるカロチノイド化合物(クロシンとクロセチン)が、①神経変性疾患(アルツハイマー型認知症)の原因物質とされるアミロイドβタンパク質の凝集を抑制し、記憶・学習能力を改善すること、また、②酸化ストレス耐性を増強して抗老化作用を導くことを明らかにしたものである。 高齢化が進み認知症患者が増加すると、医療費が増大するだけでなく、自立支援や介護負担などの労働力も増加する。この点、少子化の進む日本においては、早急に解決すべき重要かつ深刻な問題である。本論文は、そうした認知症の発症を予防、また治療する方法を提案しうる重要な発見を報告している。さらに、新しいアイデア(サフランの未利用部位である球根の活用方法の模索)が含まれている点も高く評価できる。従来報告のない大変重要な新知見をまとめた論文である(国内学会にて研究成果発表も2件実施。日本食品保蔵科学学会大会[6月、山梨]および日本生化学会学会大会[9月、京都])。
6	学術	トシノベキ 渡嘉敷 ゆうき	国際 リベラルアーツ	4		論文「The Struggle for Autonomy in Okinawa」は、①西洋哲学における 'autonomy' と日本の哲学思想における「自治」の概念を比較・検証し、また②日本における「自治」概念と近現代の沖縄県の状況との関連性について考察したものである。 まず、文献研究から、西洋の伝統的価値として「自ら治める」を意味する 'autonomy' が、哲学的、政治的、倫理的、または個人(の権利)や政治体制に及ぶ一方、その訳語とされる「自治」は、主に政治的意味合いで用いられることを指摘している。同時に、SNSを用いて日本人及び外国人を対象に行ったアンケート調査から、日本人回答者の「自治」に対する理解や意識が曖昧であるのに対し、外国人回答者の 'autonomy' に対する意識は日本人回答者と比較して高く、哲学的、政治的に重要な概念と捉えていることを明らかにした。これらを基に、次章では1800年代後半の沖縄における自由民権運動と自治の関係について、最終章では米軍基地問題から浮かび上がる、地方、中央政府、更に国際関係を踏まえた国家としての自治問題について考察しながら、沖縄県が抱える自治の問題について論じている。他府県や諸外国における(地方)自治の現状や歴史的背景に関する調査及びそれらとの比較は欠けているが、論文の主旨が一貫し、かつ言語学、哲学、政治学、歴史学等、多角的な学術的視点から問題を捉えるという本学部の理念に合致する優れた論文として高く評価できる。
7	社会活動	日高ゼミナール (代表 フシムラ ケンジロウ 今村 健二郎)	政治行政	4	日高昭夫ゼミ	日高ゼミ(9名。ゼミ長:今村健二郎)は、本学と甲府市との包括的連携協定に基づく連携事業の一環として、「協働のまちづくりワークショップ」に参加し、目覚ましい成果を挙げた。本ワークショップは、自治会活動やボランティア・NPOとの連携の具体的なあり方について、世代、男女、職業等の異なる多様な市民で構成される複数のグループで話し合い、それを通じて地域コミュニティ活性化のための政策提案を目指すものである。ゼミ生は、各グループのリーダーとして本ワークショップに主体的に参加し、ディスカッションの進行役、独自の情報収集や学生アンケート調査の分析等、重要な役割を遂行してきた。取りまとめられた提案には、大学教育と地域コミュニティとの関係性を再考する重要な内容のものも含まれている(例 大学の授業の中に自治会などの地域コミュニティ組織との交流を組み込み、学生・自治会・大学の三者がWinWinの関係築く可能性を提案)。 こうした学生の社会貢献活動への主体的参加は、社会各層の人々との交流と対話を通じて学生自身の社会性を向上させた。また、地域に開かれた大学としての本学の社会的認知度をより高める効果をもたらした。さらに、閉鎖的になりがちな伝統的コミュニティ組織(自治会)に、学生の新発想を吹き込み、新しい自治会のあり方に一石を投じることにもなった。

8	スポーツ	オシグロ 乙黒 拓斗	法	2	レスリング部	・世界選手権大会フリースタイル65kg級 優勝（日本人男子選手最年少記録） ・全日本選抜選手権大会フリースタイル65kg級 優勝 フリースタイル最優秀選手賞受賞 ・東日本学生リーグ戦6連覇に貢献 ・全日本選手権大会フリースタイル65kg級 優勝／天皇杯受賞（歴代最年少受賞）
9	スポーツ	タナカ サエミ 田中 冴実	現代ビジネス	2	スケート部	・第91回 全日本学生氷上競技大会ショートトラック選手権／1000m 3位、1500m 2位 ・2019 ユニバーシアード冬季大会選考競技会／500m 3位、1000m 6位 ・第42回 全日本選抜ショートトラック選手権／1000m 7位、1500m 8位 ・2018年 国民体育大会冬季大会ショートトラック競技会／1000m 3位 ・2019 ユニバーシアード冬季競技大会 日本代表選手
10	スポーツ	タナカ ヒメノ リ 田中 陽夏莉	スポーツ科学	2	陸上競技部	・天皇賜盃 第87回 日本学生陸上競技対校選手権女子 100mハードル 優勝（13秒53） ・関東学生対校陸上競技選手権 女子 100mハードル 優勝 ・第102回 日本陸上競技選手権 女子 100mハードル 6位入賞
11	スポーツ	ヒノグチ ダイイ 瀬戸口 大地	現代ビジネス	2	陸上競技部	・第97回 関東学生陸上競技対校選手権大会 800m決勝 3位（1'48"56） ・日本学生陸上競技個人選手権大会 800m決勝 優勝（1'50"57）
12	スポーツ	チバ タカヒロ 千葉 健寛	経営情報	4	ホッケー部（男子）	・2018年 第67回 男子全日本学生ホッケー選手権大会 優勝（4年連続・6回目） ・上記大会において主将として優勝に貢献、最優秀選手賞受賞
13	スポーツ	タナカ アキ オキ 田中 秋桜	現代ビジネス	3	ホッケー部（女子）	・2018年 第18回 アジア競技大会 日本代表 優勝（インドネシア・ジャカルタ） ・2018年 第5回 女子アジアチャンピオンズトロフィー 日本代表 5位（韓国・東海市） ・2018年 SONPO CUP 女子ホッケー4カ国いばらき国際大会 日本代表 優勝
14	スポーツ	イシノ マサ 泉 真生	法	4	柔道部	・平成30年度 全日本学生柔道体重別選手権大会 78kg級 優勝 ・平成30年度 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 78kg級 2位 ・平成30年度 全日本学生柔道優勝大会 優勝
15	スポーツ	スヤマ シュウヘイ 陶山 周平	経営情報	4	水泳部	・第94回 日本学生選手権水泳競技大会、男子200m自由形 2位 ・日本ランキング 8位（2019年1月20日現在）
16	スポーツ	マツモト アリ 松本 安莉	現代ビジネス	3	テニス部	・全日本学生室内テニス選手権 シングルス、ダブルス 3位 ・関東大学テニスリーグ 1部 6位に主力選手として貢献 ・現役の学生として世界ランキング671位を記録
17	スポーツ	ムラタ マサヒ 村田 望留	政治行政	4	空手道部	・2018年 WKFシリーズAザルツブルグ大会 団体形 優勝 ・天皇盃皇后盃 第46回 全日本空手道選手権大会 出場 ・第73回 国民体育大会成年男子形出場
18	スポーツ	イケノ マサ 池野 みのり	スポーツ科学	3	トライアスロン部	・2018年日本学生トライアスロン選手権 観音寺大会 日本学生トライアスロン連合杯／準優勝 ・2018 NTTトライアスロンジャパンランキング 最終戦 第24回 日本トライアスロン選手権／5位

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・短期大学】

No.	部門	氏 名	学科	学年	所 属	推 薦 内 容
1	学術	コヤマ ナツヲ 古屋 七虹	食物栄養	2	中川裕子ゼミ	本学生は、栄養士資格取得の学業を最優秀な成績(2年前期終了時：GPA 3.79)で修めている。栄養士実力認定試験も本学トップクラスの判定を獲得。食品表示検定(初級)にも合格。地域・ボランティア活動にも積極的にあり、2年連続で小児糖尿病サマーキャンプの栄養スタッフとして熱心に取り組んだ。学園祭イベント運営では自身の出身高校へ赴き、リーダースhipを発揮して、ポスター作成をし、ブラウンシュュー(200食)の販売を成功に導いた。日頃の勉学姿勢は全学生の模範といえ、そのノートテイクやレポートは、全教科において、学生の中でも群を抜く素晴らしい成果物となっている。 ゼミ活動では、山梨県のジビエ(鹿肉)の有効活用に関する研究を進め、調理性に富むレシピ開発や、食品の酵素を利用してより肉質がおいしく柔らかく食べられる工夫を自ら考え、実行に移す行動力を示した。
2	資格	サノ マサユキ 矢野 智裕	食物栄養	2	羽畑祐吾ゼミ	本学生は、入学以来、管理栄養士資格を卒業時に取得できる本学健康栄養学部への編入を志望し、日々の学修に加え、1年半に亘り編入準備を着実に進め、2019年度からの編入を見事果たした。栄養士資格取得のための学修・実習のみならず、幅広い知識・実践力の取得にも最大限の努力を払い、「レストラン・サービス3級」および「食品表示検定初級」にも合格し、栄養士資格とあわせて、トリプルライセンスの取得となった。 また、勉学のみに限らず「小児糖尿病サマーキャンプ」「腎臓病食事療法研究会」などの本学が学外組織と連携して活動する「食育」や「食と健康」に関わるボランティア活動にも積極的に参加し、将来の栄養士・管理栄養士としての活動に向けての考え方や経験の幅を広げ深めてきた。2年連続となる「小児糖尿病サマーキャンプ」への参加は、キャンプ内の重要なセッションでリーダー的役割を果たすなど、医療のチーム活動など将来を見据え献身的に行動していた。 以上、2年間でトリプルライセンスの取得、また自身の専門性を活かしたボランティア活動やグループ活動においても主導的役割を果たせる当該学生は、本賞に値する。
3	社会活動	タケナカゼミナール (代表 深沢 悠月)	保育	2	竹中麻美子ゼミ	竹中ゼミ2年生(12名。ゼミ長：深沢悠月)は、国際交流活動に非常に熱心に取り組み、様々な国からの留学生に酒折地区の魅力を伝えるイベントを企画し、成功させた。1年次よりICLA LAC(言語学習センター)において開催されたQuickie CookieやIOC(文化交流センター)主催のCulture Night等の国際交流イベントに積極的に参加し、運営のサポートも行いながら留学生と日本人学生の橋渡し役を務めてきた。その中で、留学生に日本の文化を体験を通して理解して欲しいという思いを深め、和装での神社の参拝と紅葉狩りというイベントを立案。国際交流センターの協力のもと、「着物で散策 in Sakaori」を実施した。開催に先立ち、学生たちは「酒折宮」と「不老園」に足を運び、丁寧に下調べを行なった。まず自分たちが日本文化について十分理解した上で留学生に説明できるよう、神社の参拝の作法や酒折の名所「不老園」の歴史についても熱心に学習し、日本語に不慣れな学生のために、わかりやすい英語での解説も準備した。当日は天候にも恵まれ、和装に身を包んだ多国籍の若者たちは美しく紅葉した風景を鑑賞。「不老園」のスタッフやカメラ片手の観光客とも交流を深めた。酒折宮では、氏子の方々に温かく迎えていただき、拝殿に上がり新嘗祭にも参加、留学生は大変貴重な経験できた。神社での参拝は竹中ゼミ生が丁寧に解説。手本を見せながら行うことで、留学生も戸惑うことなく日本文化を体験していた。この企画は、留学生の心に残る大きな思い出となり、酒折の地域の方々と留学生をつなぐ貴重な機会ともなった。学生たちの取り組みは高く評価できる。
4	団体活動	パティシエコース 2年生 (代表 塩谷 智子)	食物栄養	2	パティシエコース	パティシエコース2年生は、フードクリエイトコースから名称変更後の1期生として、本コースをさらに発展させるための活動を行ってきた。同学生は、新設教科「スイーツショップ実習」において、スイーツの製造・販売を実施した。この教科では、山梨県から菓子製造業(含、パンの製造業)の営業許可を受けた。これにより移動販売と生菓子販売が可能となった。同学生は、従来出来なかった生クリーム等を使用した洋生菓子の製造・販売を実践した(学内・樹徳祭)。地域素材を使用した生菓子・焼菓子は、学生及び一般の方々到大変好評であった(洋菓子は短時間で完売。本コース、また食物栄養科、本学のアピールとなった)。引き続き、パン・和菓子の製造販売も行い、洋菓子同様、高い評価を得、本コースで習得した専門的知識・実践力を遺憾なく発揮した。山梨ケーキショー2018のケーキコンテスト(山梨県洋菓子協会主催)では、本コースの学生がジュニア6賞を独占。さらに、製菓衛生師国家試験では16名が合格(受験者17名)。過去最高の合格率94.1%となった。これは、山梨県合格率73%を大きく上まわり、本県の合格率上昇に寄与した(以上は、今年度パティシエコース2年生の特筆すべき活動の代表例である)。